

まだ雪が残り、寒さの厳しい樹林内で、

他の木々に先駆けて新芽を芽吹いている「木」を見つけました！

結構大きくて目立つ新芽で、そこに積もった雪が氷になっていました。

そんなに無理しなくても、もう少し暖かくなってから芽吹いたらいいのに…、と思ってしまいますね。

日当たりの良好な明るい林縁では、冬芽が割れて、その中からまるで「ブロッコリー」のような「花芽」が伸びていました。

早くも、2月下旬頃から新芽が芽吹くこの木の名前は「ニワトコ」、明るい谷筋や林縁部などを好む落葉低木です。

漢字では「接骨木」と表記することもあります。枝や幹を煎じて水あめ状にしたものを、骨折治療の湿布剤として用いたことに由来するそうです。

この「ニワトコ」は、「やまたづ」という別名も持っており、古く「古事記」や「万葉集」にも登場しています。

この葉が「羽状複葉」で対生することから、これを向かい合って迎える姿に見立てて「迎へ」の枕詞として使われていたようです。

(神迎えの霊木として用いられていたことから「迎へ」の枕詞として使われた、という説もあるそうです)

君が行き 日長くなりぬ 山たづの 迎へを行かむ 待つには待たじ (万葉集)

『あなたが出かけられてから、かなり日も経ってしまった。

もう待つてはいられないので、山たづのように迎えに行こう』、 という意味でしょうか。

■写真①・②： ニワトコの新芽

◆大きな新芽に積もった雪が、氷になっていました。

■写真③・④： 花芽

◆冬芽が割れて出てきたのは…

まるで「ブロッコリー」のような花芽でした。

■写真⑤： 踊る花芽？

◆花芽が「顔」、その脇から伸びてきた葉が「腕」のようで、元気に踊っているように見えますね…

■写真⑥： 葉痕

◆割れた冬芽の下を見ると…、葉痕が可愛い「顔」のように見えました。











